



Simplex Institute

# 相場に応じた戦略

2026年 1月

# 売買戦略のテーゼ

売買戦略には、それを成立させる理論的背景が必ず存在する

ここで言う「理論的背景」には、商品知識、市場原理、市場構造などが含まれ、それらの原理・原則に基づいて売買戦略は組立てられるべきである  
また、市場での売買に裏打ちされた「経験知」も必要となる

例:NTレシオ戦略

理論的背景としては

- ・日経平均株価とTOPIXの構造はどう異なるのか？
  - ・二つの株価指数変動の違いは何に起因するのか？
  - ・市場参加者たちは二つの異なる株価指数変動から何を得られるのか？
- これらを熟知することが、NTレシオ戦略の成功には欠かせない

# まずは「TOPIX」と「日経平均株価」から

## TOPIX (東証株価指数:Tokyo Stock Price Index) の特徴

- 東証プライム市場上場銘柄や旧東証1部に上場していた東証スタンダード市場銘柄 (1,674銘柄:2025年10月末時点)
- 構成銘柄の**時価総額総和**から算定
- **大型株** (時価総額の大きい銘柄) の影響大

## 日経平均株価の特徴

- 日本経済新聞社が選択した 225銘柄
- 構成銘柄の**株価の単純平均**から算定
- **値がさ株** (株価が高い銘柄) と **IT銘柄** の影響大

# 構成比率上位10銘柄

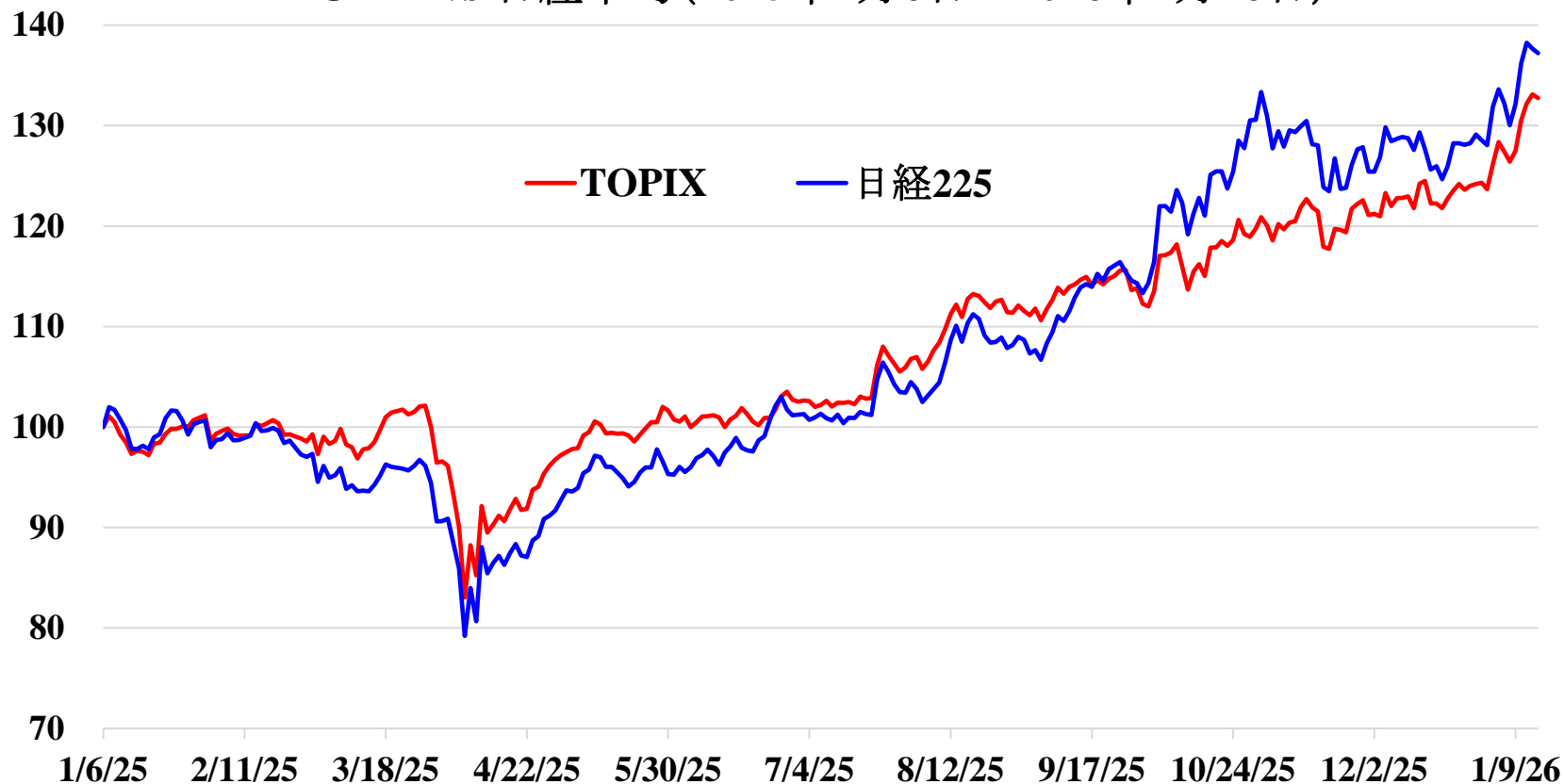
順位	TOPIX (2025年11月28日)		日経平均 (2025年12月5日)		TOPIXでの 構成比率
	銘柄名	構成比率	銘柄名	構成比率	
1	トヨタ自動車	3.47%	アドバンテスト	10.70%	1.35%
2	ソニーグループ	3.29%	ファーストリテイリング	9.01%	0.85%
3	三菱UFJFG	3.19%	ソフトバンクグループ	7.66%	1.69%
4	日立製作所	2.66%	東京エレクトロン	6.58%	0.01%
5	三井住友FG	2.12%	TDK	2.42%	0.47%
6	任天堂	1.75%	KDDI	2.13%	0.79%
7	ソフトバンクG	1.69%	ファナック	1.96%	0.50%
8	三菱商事	1.63%	リクルートHD	1.64%	1.27%
9	みずほFG	1.59%	中外製薬	1.64%	0.55%
10	三菱重工業	1.56%	信越化学	1.59%	0.87%

指数に影響を与える構成銘柄に大きな違いがある

**注)** : 多少計算上のズレがあるかもしれないが許してください(ゴメン!)

# TOPIXと日経平均の動き

TOPIX vs 日経平均 (2025年1月6日～2026年1月16日)



同じような動きだが、細かく見れば違いがある

**注)** : 比較のため、2025年1月6日を100としてある

# TOPIXと日経平均のリスクとリターン

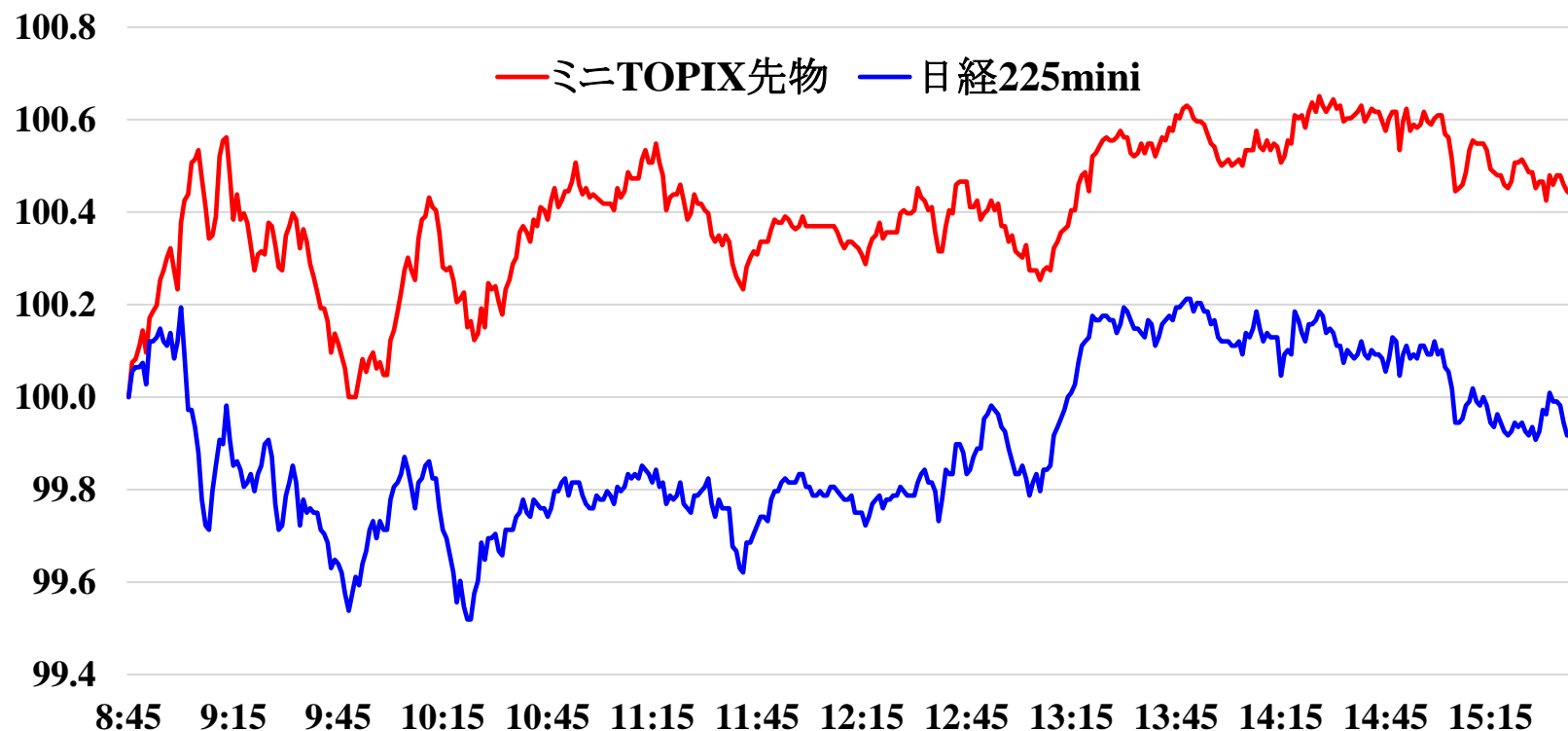
採用銘柄数は日経平均より TOPIXの方が多いため、TOPIXのリスク(ボラティリティ)は日経平均より小さいと考えられる  
また日経平均の算定方式(株価の単純平均)の特性により日経平均は株価の高い(値がさ株)構成銘柄の影響が強くなる  
そのため日経平均の値動きは上振れと下振れが共に大きい

25年1月～26年1月	リターン	リスク	リターン/リスク
TOPIX	31.58%	20.69%	1.58
日経平均	35.90%	24.10%	1.49

2025年1月6日～2026年1月16日のリターン(年率換算)とリスクは共に日経平均の方が高い(リターンは約1.14倍, リスクは約1.16倍)  
リスクとリターンの関係ではTOPIXの方がやや有利であった

# ミニTOPIX先物と日経225miniの変動

2026年1月16日8時45分～15時45分の値動き



**注)** : 比較のため、8時45分の値を100としてグラフ化

# ミニTOPIX先物と日経225miniの変動(続)

	2026年1月16日8時45分～15時45分					
先物	始値	高値	安値	終値	終値-始値	(高値-安値)/始値
ミニTOPIX先物	3,684.00	3,688.25	3,623.50	3,647.75	-36.25	1.76%
日経225mini	54,465	54,500	53,130	53,495	-970	2.52%

2026年1月16日8時45分～15時45分の時間帯で2つの先物も上下に変動し  
前日比はマイナスとなった

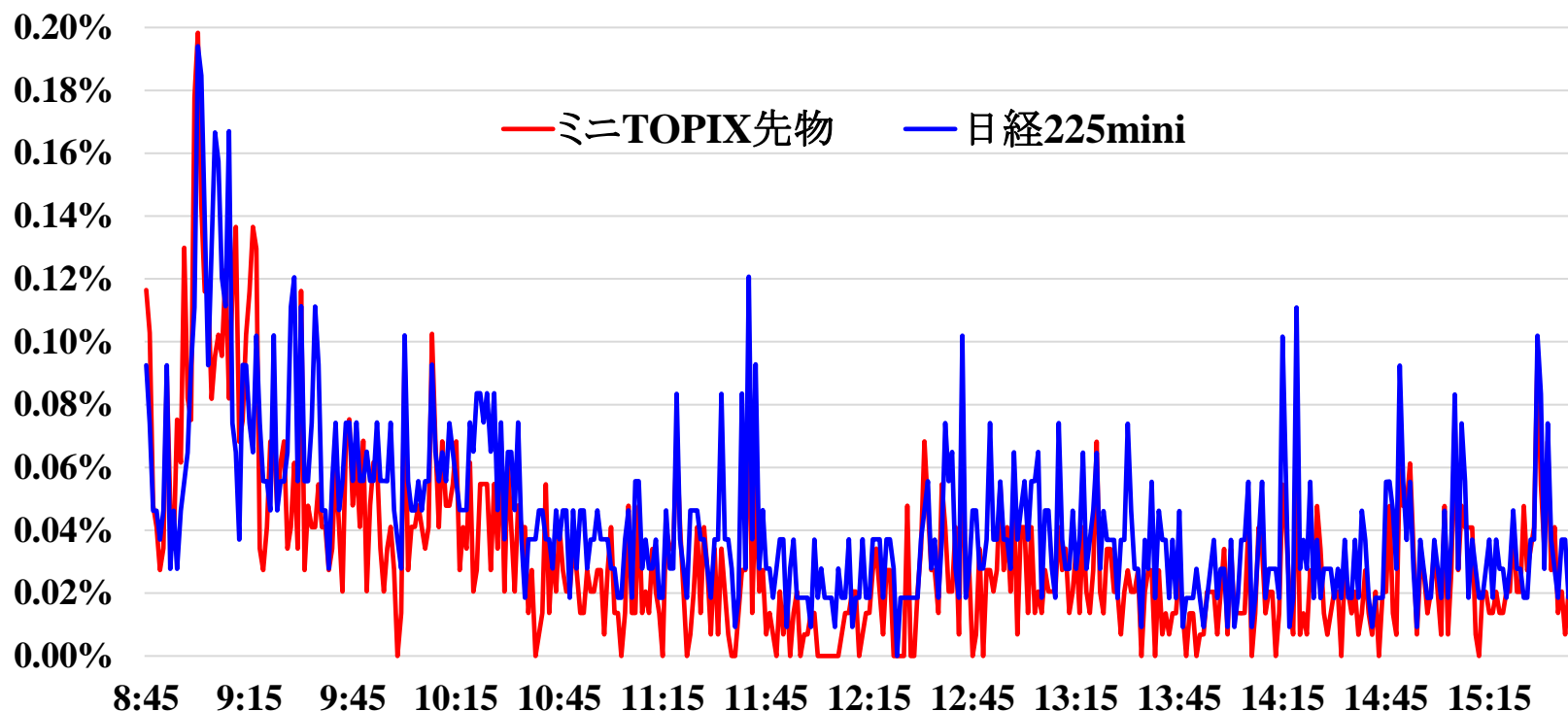
「高値－安値」の始値に対する割合は日経225miniの方がかなり大きく  
変動の割合はミニTOPIX先物の方が小さい

つまり相場をずっと見ていると、ミニTOPIX先物の方が穏やかな動きに  
見えるのではないか？と思える

この予想が正しいことが、分足を用いて「分単位」で行うとわかる

# 二つの先物の短時間変動幅

分足による変動幅  $((\text{高値} - \text{安値}) / \text{始値})$  の比較



1分間の値幅 (変動の割合) はミニTOPIX先物の方が小さい

→ 値動きに翻弄される可能性はミニTOPIX先物が小さい

値動きの波に乗れば日経225miniは利が乗りやすい

# TOPIXと日経平均の収益率比較

収益率の変化(2025年1月6日～2026年1月16日)



TOPIXのパフォーマンスの方が良いとき(左の○)と、日経平均の方が良いとき(右の○)がある この変化から安全に利益を得られないか？

# 前ページへの回答 (NTレシオ取引)

2025年9月16日に日経225mini 5枚を 44,640円で買い(22,320千円)  
同時にミニTOPIX先物 7枚を 3,143.75ポイントで売る(-22,006千円)  
11月10日に日経225mini 5枚を 51,050円で売戻し, 同時に  
ミニTOPIX先物 7枚を 3,324.50ポイントで買戻す

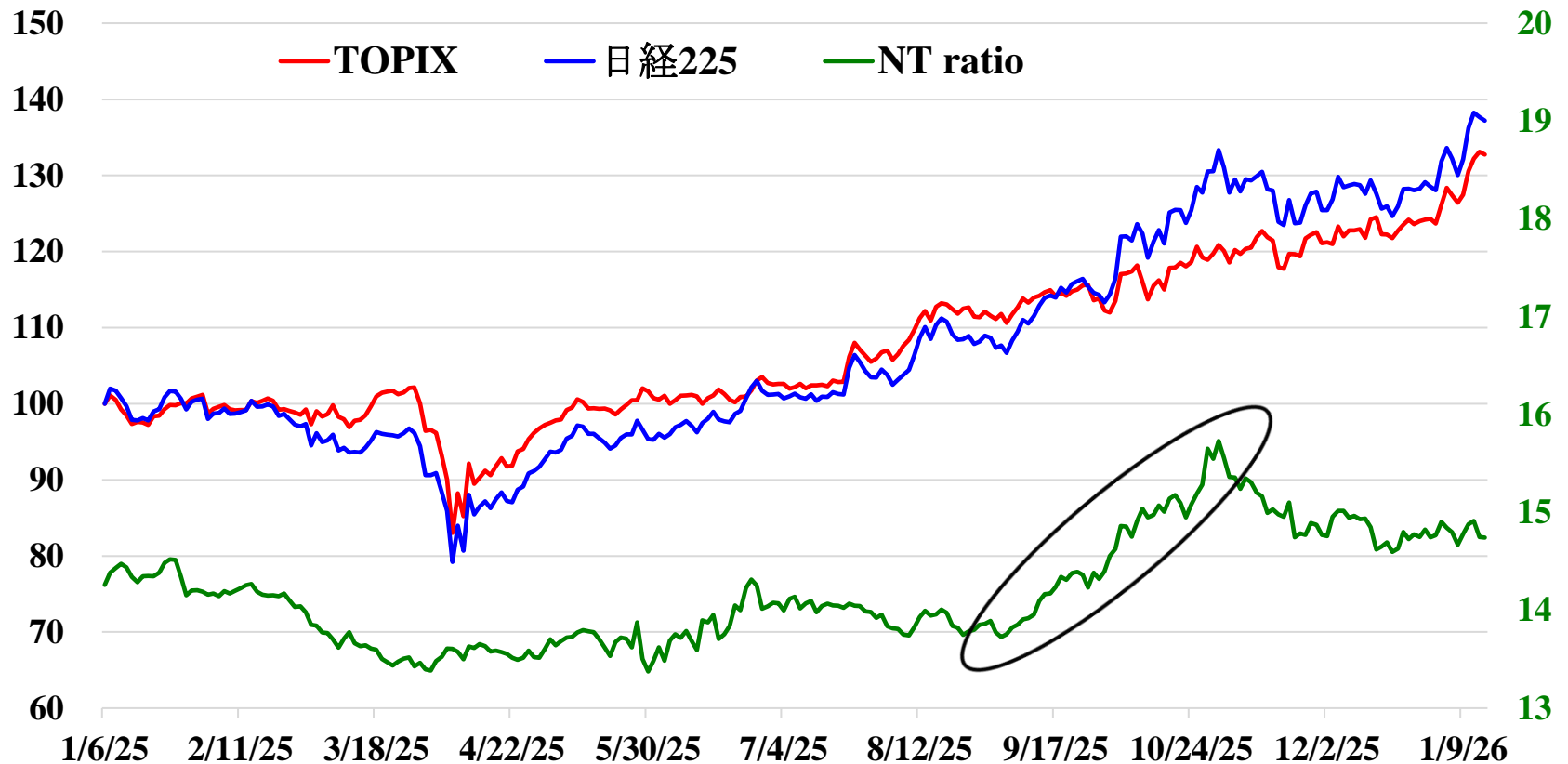
ポジション		2025/9/16	2025/11/10	損益	証拠金(概算)
日経225mini	5	44,640	51,050	3,205,000	1,700,000
ミニTOPIX先物	-7	3,143.75	3,324.50	-1,265,250	1,220,000
NTレシオ		14.20	15.36	+1,939,750	646,000

買建てと売建てを同時に行うのでリスクと証拠金が小さい  
証拠金(646,000円)に対する収益(+1,939,750円)は大きい

注) : 証拠金は概算

# NTレシオ取引

$$\text{NTレシオ} = \text{日経平均(N)} \div \text{TOPIX(T)}$$

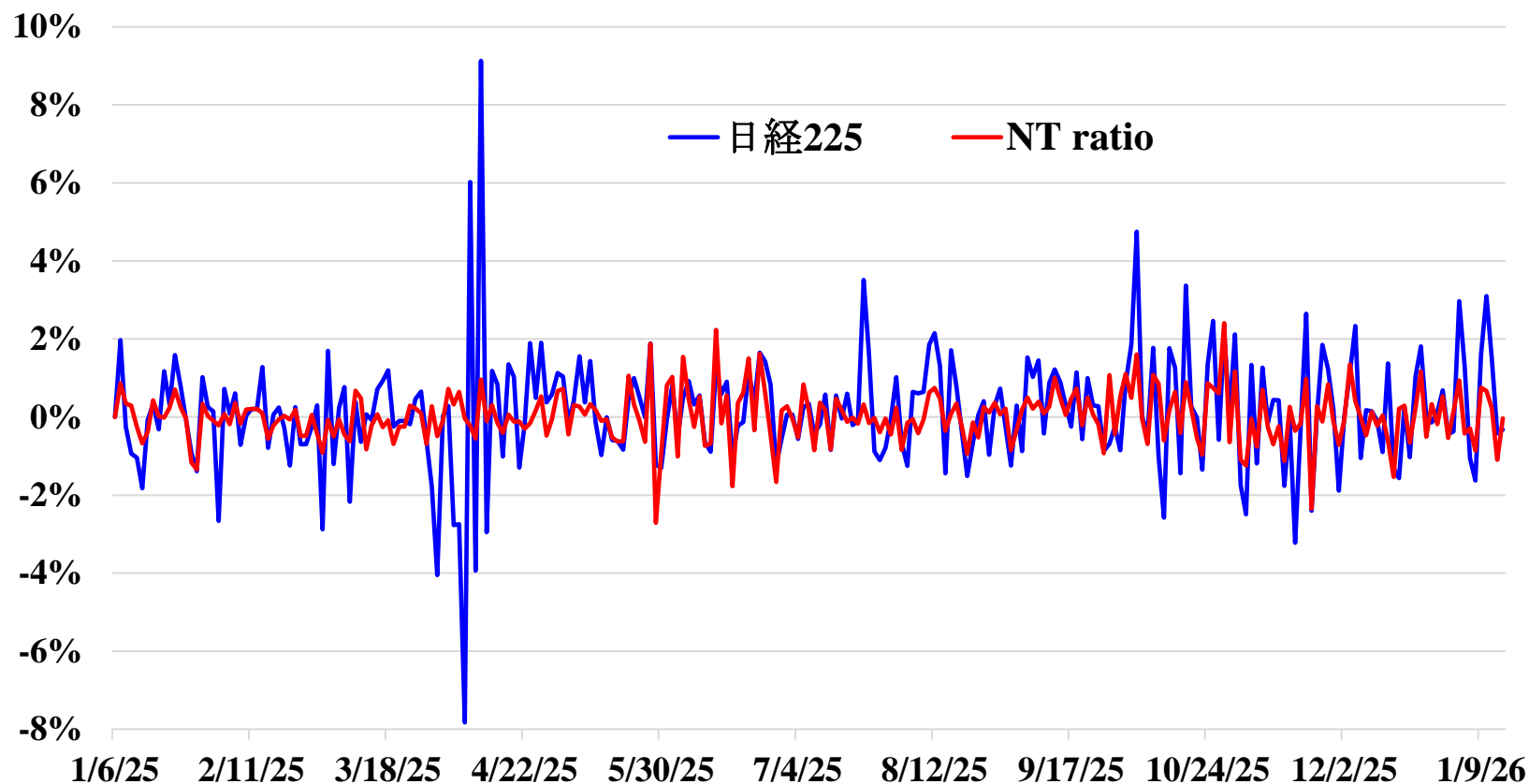


NTレシオが上昇 → 日経225miniを買い, ミニTOPIX先物を売る

NTレシオが下落 → 日経225miniを売り, ミニTOPIX先物を買う

# NTレシオ取引のリスクの大きさ

## 日次収益率の変動比較



ボラティリティ(年率)は, NTレシオが **10.7%**, 日経平均は **24.1%**

# NTレシオ取引の特徴

1. 日々の変動は小さい
  - 大きな損失が突然発生しない
  - 極端な大儲けもできないが証拠金も小さい
2. 相場変動に比べ、NTレシオの変化はゆっくり
  - 基本はNTレシオの変化に「順張り」
  - 板を「見続ける」必要がない(長期取引)
3. 相場の流れ(トレンド)が変わると、NTレシオの増減に変化がおこる
  - 日経平均のボラティリティが TOPIXより大きいため
  - いったん手仕舞って様子を見るのもあり

# 参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

## ご注意事項

- 本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。
- 必要証拠金額は当社証拠金(発注済の注文等を加味した証拠金×100%)－ネット・オプション価値(Net Option Value)の総額となります。
- 当社証拠金、およびネット・オプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定ごとに再計算されます。
- 証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。
- 「HYPER先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクローリング開始時点の証拠金維持率(お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×100%で計算)が100%を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「HYPER先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×50%～90%の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。
- 先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構のWEBサイトをご覧ください。
- 指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。
- 日経平均VI先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均VI先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

## ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ(20~30程度)に回帰するという特徴を持っています。  
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うこととなります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所 立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご注意ください。

## 金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)、店頭CFD取引(SBI CFD)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

### 金融商品取引法等に係る表示

[https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040\\_torihikihou.html](https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html)

商号等:株式会社SBI証券 (金融商品取引業者、商品先物取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会